

研究指導計画書・報告書実施要領

令和2年度教務・入試委員会作成

この実施要領は、「徳島大学大学院研究指導ガイドライン」に基づき、創成科学研究科地域創成専攻・臨床心理学専攻において研究指導を行なう上で作成する「研究指導計画書・報告書」の運用についての一例をまとめたものである。

1. 対象学生

(1) 創成科学研究科地域創成専攻・臨床心理学専攻に在学する全学生（休学中の学生は除く。）

2. 計画書・報告書作成時期

～4月初め～

①大学院学生は、各年次初めに「研究指導計画（履修予定授業科目・研究計画）」を主指導教員の指導に基づき記載する。

※2年間の履修予定科目を主指導教員と確認しておくこと。

②主指導教員は、学生が記載した研究指導計画を面談等で確認し、面談日及びコメントを記載する。

③副指導教員及びアドバイザー教員は、学生が記載した研究指導計画を面談等で確認し、面談日及びコメントを記載する。

～9月下旬～

①大学院学生は、作成した研究指導計画書の「研究実施経過報告」に研究指導の進捗状況や実績、成果等を主指導教員の指導に基づき記載する。

②主任指導教員は、学生が記載した「研究実施経過報告」を面談等で確認し、面談日及びコメントを記載する。

③副指導教員及びアドバイザー教員は、学生が記載した「研究実施経過報告」を面談等で確認し、面談日及びコメントを記載する。

～10月初め～

①大学院学生は、学期初めに「研究指導計画（履修予定授業科目・研究計画）」を主指導教員の指導に基づき記載する。

②主指導教員は、学生が記載した研究指導計画を面談等で確認し、面談日及びコメントを記載する。

③副指導教員及びアドバイザー教員は、学生が記載した研究指導計画を面談等で確認し、面談日及びコメントを記載する。

～3月下旬（最終年次は学位論文提出時期まで）～

- ①大学院学生は、各年次の終了時（修了予定の最終年次は学位論文提出時期まで）に、「研究実施経過報告（研究実施経過報告）」を記載する。
- ②主指導教員は、学生が記載した「研究実施報告書（研究実施経過報告）」を面談等で確認し、面談日及びコメントを記載する。
- ③副指導教員及びアドバイザー教員は、学生自身が記載した研究指導計画書・報告書を面談等で確認し、面談日及びコメントを記載する。
- ④大学院学生は、確認が終了した「研究指導計画書・報告書」を総合科学部事務課学務係へ提出する。（提出期限：3月末日、修了予定者は学位論文提出時）

3. その他

(1) 面談等は、電話やメール等による連絡でも可とする。その場合署名の必要はなく電子データで「研究指導計画書・報告書」を記入することも可とする。提出時はプリントアウトし紙媒体で提出もしくは、総合科学部事務課学務係 (skgakumk@tokushima-u.ac.jp) へメールで提出する。

(2) 休学中の学生は、復学後に記載する。

(3) 記入欄が足りない場合は、記入欄を広げるもしくは別紙へ記載する。

(4) アドバイザー教員は直接研究指導を行わない客観的な立場の教員であり、論文作成とは関係なく教育研究活動が円滑に行えるように指導・助言を行う。

(5) 大学院創成科学研究科地域創成専攻・臨床心理学専攻における研究活動チェックリストは原則1月1日を基準に作成し、主指導教員が学位申請時まで保管しておき学位申請時に他の書類と一緒に提出する。